

書評

[評者]

赤井裕輝

東北労災病院副院長／東北
労災病院糖尿病代謝センタ
ーセンター長



糖尿病外来診療 困ったときの“次の一手”

吉岡成人 著

●B5 頁176 2013年
定価 3,500 円＋税
[ISBN978-4-260-01857-9]医学書院刊

吉岡成人先生は日本糖尿病学会誌『糖尿病』編集長、医学書院専門誌『糖尿病診療マスター』編集委員などの仕事を常時こなされる多忙な先生である。加えて今春札幌市で開催される日本糖尿病学会主催の postgraduate course「第48回糖尿病学の進歩」世話人として準備に当たっておられる。このように最も忙しい糖尿病専門医であるが、日々実によく勉強しておられる。まさにスマートに仕事をこなす達人であり、出張先でもジョギングを欠かさない。だから吉岡先生は当代きっての臨床糖尿病学の論客なのである。その理詰めた考え方、アプローチ法は『糖尿病診療マスター誌』の毎回の編集会議で評者はよく知っている。

その吉岡先生が北大病院、NTT 東日本札幌病院で、かかりつけ医や院内他科から紹介された症例を一例一例大事にして、最も新しい考え方で診断するとどうなるのか、そのプロセスが示され、その診断に基づく治療の流れを、他科のドクターにもわかるように書かれた記録をまとめたのが本書である。内科医にとっては

またとない懇切丁寧な実習書となるであろう。

さて目次を見てみよう。第一線の臨床医が遭遇する糖尿病診療のあらゆる場面が網羅されている。本書はどこから読んでも構わないし面白い。その患者の背景が、吉岡先生の驚くべき知識量に裏打ちされた洞察力で分析され、奥深い考察となってまとめられている。ありきたりの症例のように見えても、一例読む度にそうだったのか、読んでよかった、儲け儲けとなるのである。私はコラムにこそ吉岡先生らしさが出ているなと思った。イングリッド・バーグマン主演の映画『カサブランカ』のセリフ「A lot of water under the bridge.」は鴨長明の「ゆく川のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。……世の中にある人とすみかと、またかくの如し」とまさに同じ表現であると喝破しておられる。西洋にも無常の表現があるとは……！ 医学書としてはまれな味わい深い余韻に浸ることができる素晴らしい良書である。